

2017年 夏のお盆

日本人にとって欠かせない行事である、**お盆**。

8月の中旬になると、日本国内一斉に多くの企業が長期休暇に入ります。

お盆休みをふるさとや海外で過ごす人たちが交通機関は混雑のピークを迎え、高速道路の渋滞は例年のことです。新幹線などの乗車率150%などのニュースがこの時期の風物詩として流れます。

お盆は、先祖や亡くなった方が浄土(あの世)から戻ってくる期間、と言われていました。

お盆になると、**お墓参り**をし、提灯に灯かりを灯して、果物や花をお供え物として飾りますよね。

期間は通常夏の4日間にわたり、初日を盆の入り(迎え火)、最終日を盆明け(送り火)と呼びます。

お盆の時期になると、各家庭では精霊棚(しょうりょうだな。盆棚とも)にお供えをし、火を焚いて祖霊を迎え入れます。

さらに、僧侶にお経をあげてもらい(棚経)、お墓参りをしたのち、最後にまた火を焚いて祖霊を送り返します。

東京都では7月にお盆を迎えますが、地方では8月にお盆を迎えるなど地域によって時期が違います。

それは、お盆には「新のお盆」と「旧のお盆」と二通りの時期があるからです。

新のお盆 7月13日～16日、
東京・横浜・静岡

旧のお盆(月遅れのお盆) 8月13日～16日
その他の地域

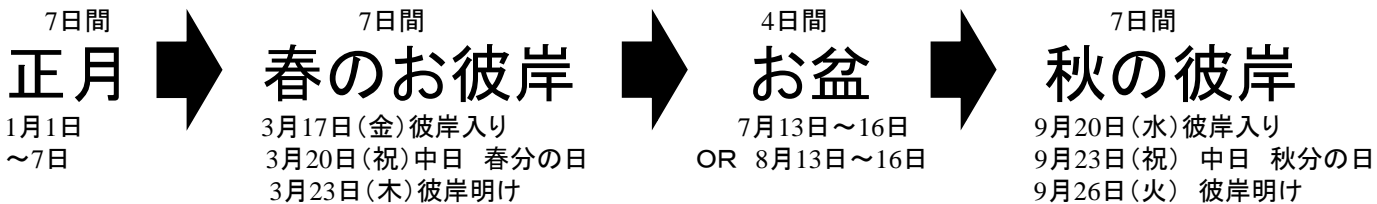
お盆休み

一般的に「お盆休み」と呼ばれる時期は「旧のお盆」や「月遅れのお盆」である8月13～16日をさしています。

2017年は山の日が8月11日(金)ですので、お盆休みは11日～16日の6連休も可能ですね。

旧盆期間中の8月15日は敗戦(終戦)記念日です。

ご先祖様への供養と感謝



お彼岸は春と秋との2回あり、春分・秋分の日を中日(ちゅうにち)とし、前後3日を合わせた7日間をいいます。

ご先祖さまや自然に感謝をささげる仏道精進の期間で日本独自の仏教行事です。お彼岸にはお寺の法要やお墓参りに行き、亡き人へ思いをはせ、感謝のまことをささげます。

春分の日、秋分の日は年度によって変わるため、当然お彼岸の期間というのも年度により異なります。

春のお彼岸は「春分の日」、秋のお彼岸は「秋分の日」を中日として前後3日間、計7日間が「お彼岸」の期間となります。「春分の日」と「秋分の日」は毎年2月に閣議によって翌年の日程が決められています。

従って、現時点(平成29年1月8日)では来年(平成30年)の日程は確定していないということになります。

サンスクリット語に「パーラミター」という語があります。

「完成する、成就する」というような意味です。

般若心経に「般若波羅蜜多」というくだりがありますが、ここでの「波羅蜜多」がまさに「パーラミター」を音写したものです。ごく大雑把に言えば、欲や煩惱、苦しみに塗れた輪廻の世界を脱し、迷いのない悟りの境地に至ることが大乘仏教における「パーラミター」であるわけです。

これがやがて日本古来の自然観や先祖崇拝と結び付き、私たちの生きる世界をこちら側の岸、すなわち「此岸(しがん)」と呼び、迷いを脱した境地を「彼岸」と呼ぶようになったのです。

お彼岸の時期に家族や親族が集まってお墓に参り、自分たちを生んでくれた両親やご先祖に感謝するという行為そのものが大切なのであり、決して絶やしてはならない日本の伝統文化なのだと考えています。